

第 5 回、資源循環型社会の形成・推進、環境コミュニティの形成・普及啓発と環境学習の充実に関する意見。

■今後のリサイクルセンター機能に関して

サーキュラー・エコノミーへの3R+Renewable の流れに向けて、リユース・リペアーに関する地域拠点化と、これまで回収が進んでいないものに関する回収拠点化などが重要と考える。

○リユース・リペアーを具体化する拠点として、また、区民が気軽に参加する実践拠点化も重要。

東京 2020 大会では調達物品の 99.7%がリユース・リサイクルできた。それを受けて、現在大阪・関西万博でも、建材や調達物品のリユースを協力に進めるための、関係事業者のプラットフォームが設置されている。このような本格的な機能を継続的に維持する自治体はまだなく、国内初の先進事例となると考える。(崎田は現在、大阪・関西万博の資源循環 WG 座長を務めている)

参考:大阪・関西万博のリユースに関するマッチングプラットフォームについて

崎田3-1

https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/uploads/231107_2-3-2_torikumi.pdf

○また、廃食用油の不法投棄が町で課題になっているというご意見もあったが、昨今は、SAF への関心が高まり、回収システムさえあれば、活用先は多いと考える。特に、航空業界が燃料の 10%を SAF に切り替えることを目指しており、東京都も広く推奨している。

参考:東京都の廃食用油回収キャンペーン

崎田3-2

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/03/25/14.html>

■環境コミュニティの形成に関して

○特に、来訪者によるごみの散乱対策は重要課題であり、例えば、秋葉原地区と神田地区など、重要取組地域をつくり、地域の住民や事業者代表と区と、来訪者世代の大学生やビジネスパーソンにも参加していただき、多様な主体の参加型で、「〇〇町、きれいな街づくり協議会」など設立し、共に検討する場を作ってはどうか。参考になるかは難しいところだが、同じように課題を抱える新宿区大久保通り周辺地域でも、これまでの地域美化などから一段強力な協議会を昨年末に発足させ、連携を強化している。

参考:(仮称)大久保通り周辺の混雑・環境対策等推進協議会

<https://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000388983.pdf>

崎田3-3

○なお、来訪者のごみの発生抑制策として、飲食のテイクアウト店では、リユースカップ使用を指定し、どの店でも回収可能にするなど、積極的な取組も検討してはどうか。なお、資料を配布する必要はないと考えるが、東京都が先進的なサーキュラーエコノミーを目指す事業を毎年選定し支援しており、このような事業の中から、地域での実装を考えてはどうかと考える。参考に下記を示します。

TOKYO サーキュラーエコノミーアクション

<https://www.circulareconomy.metro.tokyo.lg.jp/subsidized-business/social-implementation/efforts-r5>

崎田3-4

<https://www.circulareconomy.metro.tokyo.lg.jp/subsidized-business/social-implementation/efforts-r4>